

中学2年生のプライド

彼の家族は、60代後半の父方の祖母と40代後半の父親、40代前半の母親に、2つ年下の弟です。父親は祖母も自慢の、亡き祖父も同じ出身の某有名国立大学経済学部出の国家公務員です。特1,3,7月はそろばん片手に大変お忙しいお仕事と言えお分かりかと思います。当然に長男の彼に寄せる周囲の期待は計り知れないものです。勿論、彼もこれまでの生育歴の過程でそれを十分過ぎる位に感じ取ってきており、それが表ばかりが強いプライドを産み、彼のAC（周りの目を気にするいい子ぶりっこ性、順応性）の高さとなって現れております。ところが、彼の高いNP（優しいお節介お婆さん性、母性）も災いしてか、自分の息子ゆえに自分と同じ道を歩めると思いこむ父親の期待に、小学校までは何とか応えられてきました。

しかし、霊峰富士の麓の新築住宅購入により学期途中で転校した中学校の学習はそうはいかず、特に数学に至っては文字化＝一般化（方程式）が始まり、1年生の2学期あたりから英語も本格的になり、共に分からなくなり始めたのです。ところが、転校したばかりでまだ教えて貰うにも友達がおらず、と言うよりは分からない自分をさらけ出すにはプライドが許さなかったのかもしれませんが。考えてみれば、ちょっとかわいそうな気がします。誰もが転校し、クラスみんなの前に立って担任の先生から紹介されると、どんな子だろう？とみんなの視線を一気に浴びせられ、どうしてもイイ子ぶりがなくなっちゃうんですね。

思い余って声を掛けた同級生がちょっといたずら好きな生徒達で、彼らのするちょっとした悪さが許せない。CP（正義感・道德感を持つ頑固親父性、父性）の高さがそれを物語っております。しかし、NPの高さから思いやりのある彼は、その子達も決して悪い子達ではないと思いながらも、余り親しくは付き合いきれなかったのです。CPとNPとの葛藤のように思います。私共でこれまで対応してきました中に、似たようなケースは他にもありました。ましてや彼にはプライドという仮面も被ったまま、なかなか本当の自分を出せなかったんですね。その頃から学校を休みがちになり、母親がいろいろと相談機関を調べ、翌年5月になって私共の元に相談に来られたのです。

私共では、親子の心理テストを採り詳しい成育歴を聴き、ご両親や祖母にこれまで述べました彼の心理分析（勿論、もっと詳しく）をお話しさせて頂きました。そして、遠いため彼にはインターネットを通じて学習指導をさせて頂きながら、ご両親とは週1回、本人とは週3回のペースで、勿論別々にオンラインも活用しそれこそ腹を割った話し合いをじっくりさせて頂きました。そうして周囲の理解を得ながら、約5カ月かけ彼の背負いきれない負担を少しずつ降していきました。

その年の夏、長野で行われた交流合宿と、翌年春のオーストラリアの交流合宿にも参加し、同世代の仲間たちとの様々な活動を通じて、楽しく深い心の交流もでき、自然と素直な感情を出せるようになり、周りの目を気にする素振りもなくなってきました。そして、遂に2学期の10月上旬に授業復帰を果たしました。ただ特に5教科の学力が付いた2年生の終りま

では、引き続きインターネットを通じて指導させて頂きました。その後は、彼の希望で当グループの東進衛星予備校に入学して頂き、大学進学を目指すことになりました。

そして、4年後、お父さんの出身大学ではありませんでしたが、国立大学法学部合格を勝ち取りました。お礼に来た時のご両親のホッとした顔と彼の晴々とした笑顔は、今でも忘れません。